



ウグシクゴギヤーン
ウグシク(御城)とは首里城のことです。
元々は敬称ですが、首里では今でも親しみを込めて
この呼び方を使います。



4/23 土 ~ 7/5 火 「新収蔵品展」朱漆三巴文盆

首里城公園管理センターが過年度に収集した資料の中から未展示の収蔵品のお披露目展示を実施します

「朱漆三巴文盆」は、朱漆が塗られた上に、尚家の印である三巴文が大きく描かれた丸盆で、首里城の「御内原(おうちばら)」で使われていたと考えられる一品です。
※御内原は、正殿の後方(東側)にある、江戸城でいえば「大奥」のことで、国王やその家族、女官等が住んでいたプライベートな空間のことで、
※首里城南殿二階特別展示室は有料(入館料が必要)です。

好評開催中 「うるしの王国 琉球Ⅳ」 4/22 金 まで ~青貝の輝き~

琉球王国時代に中国皇帝や徳川將軍、大名に献上された美しい螺鈿(らでん)の漆器の展示を通して、琉球漆器の技術の高さを紹介します。

【お問い合わせ：首里城公園管理センター】
TEL：098-886-2020 FAX：098-886-2022



黒漆宝貝螺鈿琵琶



朱漆花鳥螺鈿卓

鎖之間のご利用案内 (有料) について



鎖之間は、琉球王朝時代、王子の控所であり諸役の者たちを招き懇談する施設といわれておりました。現在、鎖之間では琉球王朝時代の伝統菓子やお茶を味わうことができる有料体験施設となっております。どうぞ往時の雰囲気をお楽しみ下さい。

- ・お申し込みは鎖之間入り口にてお受けしております。
- ・混雑時にはお待ち願う事もありますのでご了承ください。
- ※電話による予約は行っておりません。



- ・お茶はさんびん茶(ジャスミン茶)となっております。
- ・鎖之間の場所：有料区域内・鎖之間になります。

利用時間	9:30 ~ 18:00 (ラストオーダー 17:30)
料金	300円(お一人様)

- 鎖之間でお出ししております 4種類の菓子
- ・花ぼうろ
 - ・くんぺん
 - ・ちいるんこう
 - ・ちんすこう

首里城基金へのご協力をお願い ~未来へ残そう沖繩の心~

首里城は、琉球王国の歴史と文化の象徴として、我が国の貴重な国民的文化遺産でありましたが、去る大戦において沖繩が戦場となったため、焼失しました。焼失を免れた琉球関連の品々もありましたが、すでにその多くは国内外に散逸していました。そこで、平成4年の首里城公園の開園を契機に、当財団内に首里城基金を創設し、首里城に関する展示資料の収集、復元、保存及び活用の事業を推進しております。「首里城基金」の趣旨をご理解頂き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ◆受付◆
財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団
首里城公園管理センター
〒903-0815 那覇市首里金城1丁目2番地
TEL 098-886-2020
- ◆振込みされる場合◆
沖繩銀行 首里支店(普通) 1318639
琉球銀行 首里支店(普通) 6-495
沖繩海邦銀行 首里支店(普通) 0-482-155
口座名 首里城基金

Vol.20 SHURIKAWARABAN 首里かわらばん

首里には、かつての王都として落ち着きあるたたずまいと歴史文化があります。たくさんの方の魅力ある首里人(すいんちゆ)を紹介してきた首里かわらばんも、おかげさまで二〇号となりました。発行二〇号目を記念して、首里城の門特集をお届けします。

特集

二つの綾門 中山門と守礼門



▲1958年に復元された守礼門

守礼門が建造されたのは、尚清王の代二五二九年。一四二八年に尚巴志王が創建した中山門を模したという。中山門は現在の首里高校の西側、琉染りゆうせん)の辺りにあり、和、中が融合した琉球独自の建築様式だった。(①中山門②守礼門の位置は中面参照)
守礼門の呼び名は、時代と共に変化した。最初は「待賢(たいけん)」という扁額から待賢門、次に「首里」の扁額が掲げられ首里門と呼ばれた。尚永王の代に「守禮之邦」の扁額が作られ、冊封使の滞在中のみ掲げられた。尚質王の代に「守禮之邦」が常掲されるようになり、「守礼門」の呼称が定着した。

中山門から守礼門への道は綾門大道(あいじょうふうみち)と呼ばれ、守礼門は「上の綾門(ういぬあやじょう)」、中山門は「下の綾門(しちやぬあやじょう)」とも呼ばれた。
綾門とは美しい飾り門のこと。綾門大道は、首里城へのメインルート、琉球の都大路だ。二つの綾門は、歴史の目撃者でもあった。歴代の冊封使、一六〇九年の薩摩軍、一八五三年のペリー、一八七九年の琉球処分官・松田道之らが、二つの綾門をくぐった。ちなみに、綾門大道は香粉道(こうくみち)と呼ばれる舗装道路。材料は漆喰とねなしかずらの汁を混ぜたものだ。この舗装は沖繩戦まで現役で、戦前の首里を知る人々は「雨の日は滑って危なかった」と語る。
一七〇〇年代初頭に作成された「首里古地図」によると、綾門大道には、首里城



▶「首里城図」(沖繩県立図書館所蔵「写真集 首里城」より転載)

側に向かっていると、薩摩の役人が使った御客屋、安国寺、玉陵などが、左側には世子が住む中城御殿、大美御殿などが並ぶ。後に中城御殿は移転し、跡地は具立一中

一九〇八年、老朽化した中山門が競売にかけられた。当時の新聞によると、屋根は崩れかかっていたという。五二円二七銭で寒水川村の宮里加那が落札し、風呂屋の薪にしたとも言われる。「中山」の扁額は行方不明となった。
一方、守礼門は一九三三年に国宝に指定され、一九三七年に解体修理工事が終了。この時、残っていた中山門の石が、守礼門の一部に再利用されたという。
沖繩戦から十一年後の一九五六年、守礼門復元期成会が発足した。期成会が集めた寄付金と行政の補助金で、一九五八年に守礼門は復元された。
今の綾門大道を歩くと、明治期の中山門に適切なメンテナンスが行われていたら、と考えてしまう。守礼門と一緒に国宝に指定され、戦後は二つの綾門が揃って復元されたかもしれない。

首里かわらばん 第20号

2011年3月発行
編集 首里かわらばん編集会議
発行/事務局 NPO法人 首里まちづくり研究会
〒903-0812 那覇市首里当蔵町2-13
TEL 098-963-9294 FAX 098-963-9296
http://happy.ap.teacup.com/suimachi/
協力 78タイフーン fm(周波数 78.0 MHz)
〒903-0824 那覇市首里池端町34-2F
TEL 050-3539-1178 FAX 098-882-2400
http://www.fmnaha.jp/
タイトルデザイン 石原左内

編集後記

20号を記念しての首里城の門特集はいかがでしたか? 各城門の役割を知ると、首里城散策もひと味違う楽しみ方ができそうですね。20号という節目を迎え、これまでご協力いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。これからも首里かわらばんをどうぞ宜しくお願いいたします!



- バックナンバーのお知らせ
■首里かわらばんのバックナンバーがホームページでご覧になれます。
首里地域情報ポータルサイト「e首里ドットコム」 URL <http://www.e-sui.com/>
- 1号 石畳のまち首里金城町
 - 2号 城下町のメインストリート龍潭通り
 - 3号 首里の旗頭
 - 4号 首里の伝統菓子
 - 5号 首里三箇のまちづくり
 - 6号 備後駅周辺エリア
 - 7号 琉球の宮廷音楽
 - 8号 真和志今昔
 - 9号 寒水川・「水」への感謝でつながる絆
 - 10号 フクギとともに受継がれる虹型(山川町)
 - 11号 旗頭に魅せられた男たち(旗原町)
 - 12号 大中(ウフチュン)の歴史を見守り続けて(大中町)
 - 13号 首里城は世界で最も大きな漆器
 - 14号 結束力に支えられて広がる当蔵のまちづくり
 - 15号 歴史と地域を守り継ぐ舞・汀貝町獅子舞
 - 16号 「先を讀む力」で和を結ぶ・鳥堀のまちづくり
 - 17号 子どもたちが誇りを持つ故郷づくりを(首里石嶺町北翔会)
 - 18号 伝統を受け継ぐ熱き杜氏の想い
 - 19号 100年後にも「弥助世」の願いを伝えたい
- お問合せ 事務局 TEL 963-9294